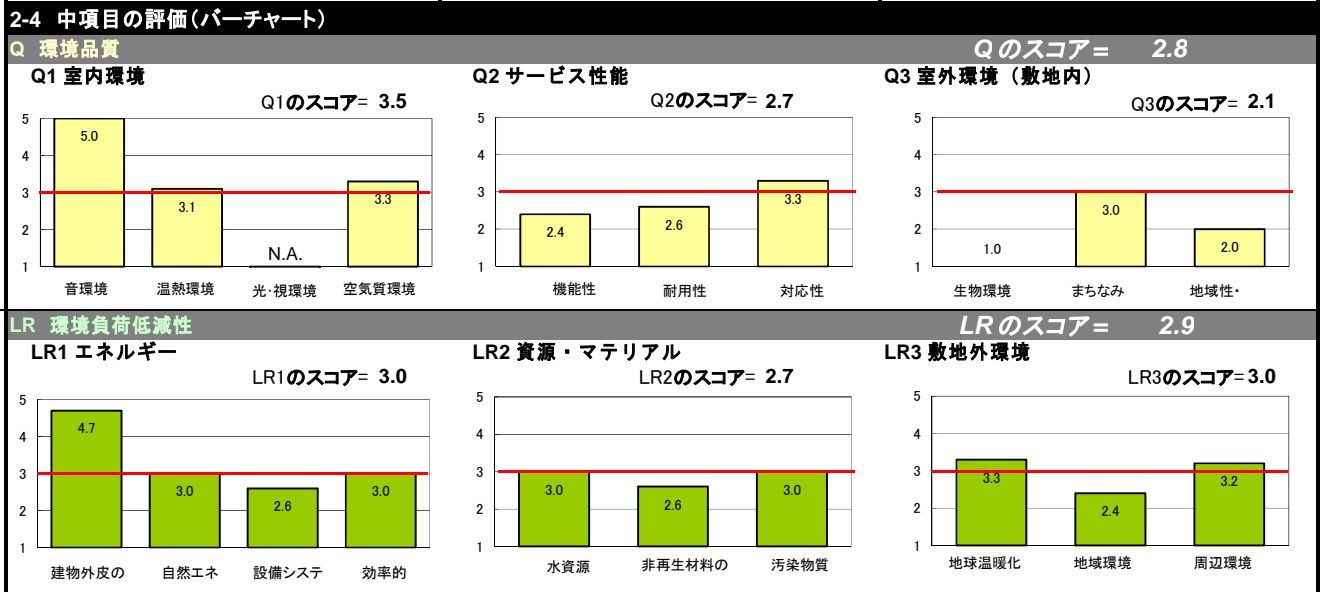
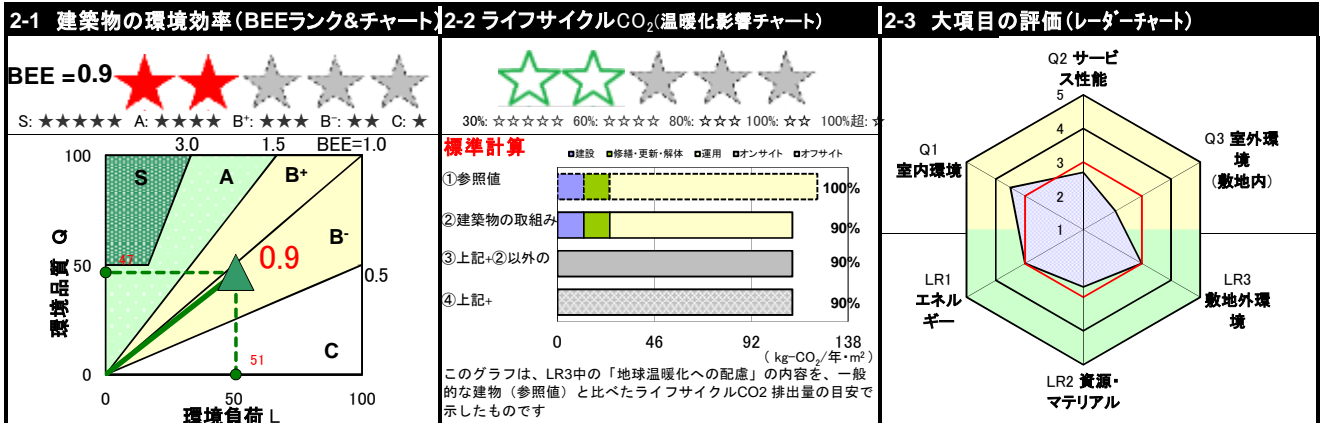


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)河内小阪プロジェクト	階数	地上4F
建設地	大阪府東大阪市御厨栄町一丁目	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	10人
地域区分	5地域	年間使用時間	4,745時間/年(想定値)
建物用途	集会所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年3月 予定	評価の実施日	2019年3月25日
敷地面積	1,496㎡	作成者	中家 啓兆
建築面積	1,123㎡	確認日	2019年3月25日
延床面積	4,137㎡	確認者	中家 啓兆



3 設計上の配慮事項		
総合	高い外皮性能、効率の良い設備機器を使用しており、エネルギー消費、環境負荷低減になるように設計されている。	その他 特になし。
Q1 室内環境	使用建材はほぼ全面的にF☆☆☆☆を使用している。	Q3 室外環境(敷地内) 建物がまちなみや風景にバランスよく調和されており、植栽も行って景観への配慮も行っている。
LR1 エネルギー	LED照明を使用し消費電力の低減に努めている。	LR3 敷地外環境 公害対策ガイドラインの一部を満たす取り組みを行っており、広告物照明の扱いの一部を満たしている。 1階にゴミ庫を設置しています。開発指導要綱により延べ面積当たりのゴミ庫の設置基準を満たしています。
Q2 サービス性能	壁長さ比率が低く、空間の形状と自由さが大きく設計されている。	
LR2 資源・マテリアル	GWPが低いグラスウール断熱材を使用している。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H31-0008

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	(仮称)河内小阪プロジェクト					
	建設地	大阪府東大阪市御厨栄町一丁目					
	用途/区分	集会所 工場					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					B-	
①	CO2削減					3	
②	みどり・ヒート アイランド対策					2	
③	建物の断熱性					5	
④	エネルギー削減					3	
⑤	自然エネルギー直接利用					—	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	○	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—

	エネルギー消費量の報告	報告しない
--	-------------	-------

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	3.3	3
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	1.0	2
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	2.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	4.7	5
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	2.6	3
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	3.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	報告しない

【その他】		
	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項		